

南郷学習センター『弥八庵』について

旧河井邸跡地にあった、離れ家の耐震補強工事が、令和3年8月20日に完了しました。
新名称を南郷地区民に募集したところ、多くの新名称案が出され、9月19日に『弥八庵』と決定しました。
今後は、南郷地区民の憩いの場、学びの場として活用していただければと思います。

1. 経緯

平成20年3月に、旧河井邸を解体する時、「弥八庵」と「お蔵」は、築120年程であり、文化財としての価値があり残すことになりました。

旧河井邸跡地に、平成24年3月 南郷地域生涯学習センターを建設した時、「お蔵」は河井弥八記念館として改修され、現在皆様に活用されています。

「弥八庵」は耐震強度不足で、河井家の備品置場（掛川市で管理）としてのみ利用されていた状況で、このままいけば、地震で倒壊するか、風化していくかの状態でした。

そこで掛川市や地元各団体等の協力を得て、耐震補強工事と一部改修工事を実施する事になり、この度工事が完了し、南郷地区で利用することが出来るようになりました。



【入口付近（東北側より）】



【床の間（南側より）】



【全景（南西側より）】

耐震補強工事 完成
令和3年8月20日 撮影

2. 「弥八庵」について

「弥八庵」は、明治27年に、河井弥八氏の父重蔵氏により建立された建物です。その時の図面が現存しており、設計図によれば、土間があり、離れの一軒家でした。

重蔵氏は、この離れ家を主に「客間」として利用していました。

その後、弥八氏が離れ家を議員活動の地元拠点とするため、昭和20年代の初め頃 改修工事が行われ、長廊下・庇・トイレを増設し、土間を撤去し電話を設置しました。

弥八氏が使っていた頃は、「新座敷」と呼ばれており、主に書斎として利用されていました。



旧河井邸解体前



平成19年4月8日撮影

3. 使用目的

- ・ 南郷地区民の憩いの場、学びの場とする
- ・ 各サークル活動に利用する
- ・ 各イベントに利用する
- ・ 押入のみ河井弥八記念館の備品庫とする

4. 使用方法

- ・ ふれあい南郷 No.124 2021.10.1号 に記載

5. 使用開始

- ・ 令和3年10月3日（日）～

6. 耐震補強工事と一部改修工事

★耐震補強工事

- ・ 仕口ダンパー（地震時緩衝材入）



耐震補強工事として「仕口ダンパー」を16ヶ所設置
（緩衝材入）

★一部改修工事

- ・ 電気、エアコン工事
- ・ 水道工事
- ・ 畳の新設

7. 『弥八庵』諸設備、資料

★鬼瓦



（東側 : 紀元貳千五百五拾四年）



（西側 : 明治貳拾七年）

★床の間の地袋（刀の鍔）



床の間 地袋



引戸の取っ手に刀の鍔を使用

★葛壁（床の間）



床の間の部屋の壁は全て葛布を使用した葛壁

★ふすま（葛布使用）



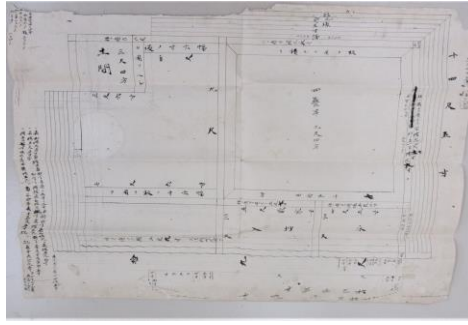
襖は葛布を使用

★布団部屋（戸）

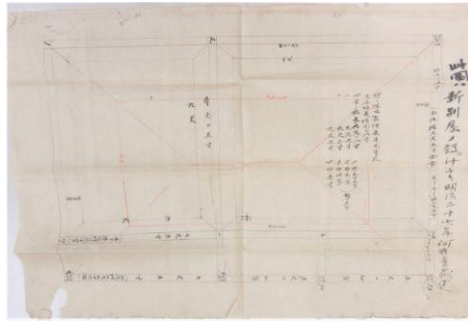


材質：霧島杉
節がそのまま残されている

★離れ家建築時の図面



「新別家ノ設計ナリ 明治二十七年 河井重蔵建」と記入
当初は、東南側に三尺四方の土間があった



★東側梁と軒先



梁 : 自然の木材をそのまま使用
材質: 地松 (赤みの多いヤニ松)

軒先 : 扇垂木で施工されている

★南側、西側梁と軒先 濡れ縁と戸袋の補修



梁 : 自然の木材をそのまま使用
材質: 地松 (赤みの多いヤニ松)

軒先 : 扇垂木で施工されている

濡れ縁
材質: 南側檜、西側杉 (1枚板)

西側戸袋内に記入
【小笠郡掛川新町 長谷川清作
之作】と記入されている

★床下補強

床下土台に、かなり大きめの火打土台が設置されており、土台が鉄筋 (φ18mm)
(東西方向: L=6.3m 2本 南北方向: L=4.5m 3本) で補強されていた

★床の間の敷板

床の間の部屋の敷板は、松・黒檀・桜の木を併せて施工されている